



**JAPANESE A1 – STANDARD LEVEL – PAPER 1**  
**JAPONAIS A1 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1**  
**JAPONÉS A1 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1**

Friday 5 November 2010 (afternoon)  
Vendredi 5 novembre 2010 (après-midi)  
Viernes 5 de noviembre de 2010 (tarde)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

---

**INSTRUCTIONS TO CANDIDATES**

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a commentary on one passage only. It is not compulsory for you to respond directly to the guiding questions provided. However, you may use them if you wish.

**INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS**

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez un commentaire sur un seul des passages. Le commentaire ne doit pas nécessairement répondre aux questions d'orientation fournies. Vous pouvez toutefois les utiliser si vous le désirez.

**INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS**

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un comentario sobre un solo fragmento. No es obligatorio responder directamente a las preguntas que se ofrecen a modo de guía. Sin embargo, puede usarlas si lo desea.

次の1の文章と2の詩のうち、どちらか一つを選んでコメントリー（解説文）を書きなさい。

## 1.

もう六、七年にもなるが、その頃私は田舎都市のある会社に勤めていた。私はその町まで三里のあいだ堤防づたいに自転車に乗って通っていた。一口に三里の堤防道というけれども、利根川

5 くらいの大さの川になると、風の吹く日には、逆風にあうととても自転車では前へ進むことが出来ない。仕方がないので自転車からおりて、自転車をひきずって歩いたりしなければならぬ。これほどイタイタしいことはありはしない。私は自転車にのって、つまり自転車という便利な道具を操る事によつて、歩くより何倍か楽に、何倍か早く目的地に到着すべきはずであつた。ところが私は悲しいことに荷物をひっぱって歩かなければならぬのだ。私が自転車をすてないのは、  
10 帰り途にひよつとすると、風が止むか、追風になることを当にしているからであるのと、その自転車を預けるところがどこにもないからなのだ。全くそのような場所だからこそ、風の吹きようもはげしいというものなのだ。

私は茫漠とした風景の中を風に吹かれながら自転車をひっぱって歩きながら、このさい忍耐というものを学ぶよりほかに仕方はないと思つた。私は一步一步徒勞に近い行進をしながら、その一步一步によつて私の忍耐力が次第次第にふくらみ、私が将来、それによつて何事かを成就することになるかも知れないと空想したりした。しかし私が将来そのような具合のよいことになる様子に見えはしなかつた。私はエンマというおそろしい名前と呼ばれている運河にはさまれた百姓家の倉を借りて、親子四人暮らしていたわけで、お先き真暗というより仕方がなかつた。

15 20 しかし私は執拗に忍耐した。その忍耐の仕方が今いつた、自転車をひっぱって歩くというようなことや、子供をエンマに落さないように常住気をつけているということや、どんなに辛いことがあつてもその倉でしんぼうしてそこから去るなどということを考えないということなどであつた。

私は今、エンマに子供を落さないように気をつけるといつたが、これは大分説明を要する。というのは、このエンマというのは実は、江間ということらしく（もつともこれは誰にも聞いたわけではなく、私が想像しただけのことだが）これは小運河で交通路であるために、かんじんの道路はきわめて細く、そして細いところこそ土地の人の自慢の種である位であつた。というのは雨でも  
25 降れば、その三尺足らずの道はツルツルとすべり、エンマへ落ちずに歩くことは至難のことであるのだが、住人は誰一人としてすべるものはない。私も妻も子供もみんないくどとなくエンマへ落ちこむ悲運に会つたが、彼らにとつては私たちが落ちこむことこそ、彼らの誇りを高め、隠微な自慢の種であつたのだ。私は知っているが彼らは決して笑いはしない。そのくせ、私たちが落ちたことは、翌日には全村に伝わり、彼らはその細い道を何か彼らの村の誇りのように語りあつ

30 て、酒のサカナにしていたのである。

私は天気の良い日でも、私が家にいる限り、子供がエンマに落ちないように真張りをしていなければならなかった。それは楽なことではない。彼ら村人も生まれた時から、エンマへ落ちずに歩くことが出来たわけではなくて、幾多の犠牲をはらってきたのである。そのしよらこにどの家でも二代か三代のあいだに一人はそのエンマに食われているのだ。私のヨチヨチ歩きの子供  
35 が名誉ある犠牲者の一人になることはいくら私とその村を去る意志がないにせよ、どうして喜ぶことが出来ようか。村人は誰も私の子供が落ちることを気にかけてはくれないことは、私にはよく分っていた。彼らはむしろ私の二人の子供のうち一人位は溺死することによって、はじめてその村に住む資格があると思っていたのであろう。

(小島信夫 「鬼」 『アメリカン・スクール』 一九六七年)

(注)

小島信夫 (一九一五〜二〇〇六年) 小説家・評論家。

隠微 外面にはかすかにしかあらわれず、実体の分りにくいこと。

- ― 「私」にとって「忍耐」はどのような役割を持っていますか。
- ― 「エンマ」はどのように表現され、それは「私」にどのような影響を与えていますか。
- ― 「私」の一家と村人たちとの、どのような関係が描写されていますか。
- ― ここに現れる自然と人間との関係には、どのような特徴がありますか。

2.

## 涙

涙はひとりでにあなたの瞳を濡らした。  
どうしてよいかわからないとき、  
涙はうぶ毛の頬をつたわった。  
十七の娘にはわからないことが多すぎて、  
5 なぜ、素直なことが素直にゆかないか、  
正直に云ったことがいろんな問題をひきおこすか、  
それを抗議するように  
涙はひとりでに流れた。  
苦しいことを苦しいと  
10 口に出して言えない言葉は  
すぐ涙となってながれた。  
口もとは笑い、  
何かひとりごとのようにはなしながら、  
涙は敏感に心の苦痛をうけて  
15 光りながらあなたの頬をつたわった。  
ああ、大人になりかけて  
いろんな世の中の出来ごとが一時にあふれ、  
やわらかい芽が雨にぬれるように  
涙はあなたの蒼<sup>あは</sup>みがかつた瞳を濡らす。

(菅原克己 「涙」 『陽の扉』一九六六年)

- 1 「涙」は何を意味していますか、またそれはどのように表されていますか。
- 1 この詩の言語の特色とその効果について述べなさい。
- 1 この詩の感動の中心となる考えや感情は何でしょうか。